

(様式第1号)

平成31年3月29日

陸前高田市議会議長 伊藤明彦様

会派名 新風  
代表者職氏名 会長 菅野 定



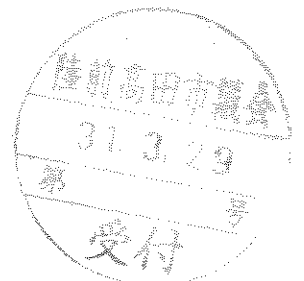
政務活動概要報告書

政務活動費に関する取扱要綱第6条第2項の規定により、平成30年度政務活動の状況について報告いたします。

記

1 管外行政視察事業

詳細は別紙1のとおり



(別紙 1)

(1) 実施日 平成 31 年 2 月 18 日 (月) ～ 20 日 (水)

(2) 視察場所 高知県室戸市：合同会社シーベジタブル

高知県高知市：高知市役所

高知県南国市：南国市役所

(3) 参加者 菅野定 (会長)、及川修一 (副会長)、三井俊介 (事務局長) 3 名

(4) 内容

◎ 2 月 18 日 (月)

(ア) 行程

陸前高田市～花巻空港～大阪伊丹空港～高知龍馬空港～室戸市～ニューサンパレスむろと (宿泊)

◎ 2 月 19 日 (火)

(ア) 行程

ニューサンパレスむろと～合同会社シーベジタブル～高知市役所～リッチモンドホテル高知 (宿泊)

(イ) 視察

① 合同会社シーベジタブル 8:30～11:00

説明員：友廣裕一氏 (合同会社シーベジタブル 共同代表)

蜂谷潤 氏 (合同会社シーベジタブル 共同代表)

陸上のり養殖事業の事例の紹介を受ける。

説明内容：2016 年から合同会社として事業を行なっている。陸上養殖用のりの種子の開発に成功したことで、通常ののり養殖に比べて、3分の1の期間ででき、なおかつ通年で行えることで、生産性が10倍以上になっている。また国内で100トン年間需要があるのに対して、20トン程度しか供給されていないことからビジネスとしても販路に困らない状態であり、単価も高額である。またのりは重量もないことから女性や高齢者、障がいのある方でも行えることが特徴である。

所感：施設を見させていただいたが、本当にアナログでありながらも緻密な計算と実践がされている様子がうかがえた。陸前高田で行う場合には、冬の期間など海水温が低い時期は検討が必要であること、松の育成具合などによる日照時間の課題のような地理的要因

によるものなど、様々な課題を聞かせていただいたのは大きな収穫であった。またのりだけでなく、マツモなども今後の実験次第では可能になるということは大きな希望であると感じた。

② 高知市役所 15:00～16:30

説明員：平井千加子氏（高知市役所 教育委員会学校教育課  
就学前教育班長）

幼保小連携事業の紹介を受ける。

説明内容：平成25年から取り組みが始まった「のびのび土佐っ子プログラム」は当初は60以上ある保育・幼稚園のうち、8園からスタートした。今では40園以上に広がり、「小1プロブレム」の発生可能性はかなり下がっている。また保育士と小学校の先生が相互理解することで、現在小学校に求められているアクティブラーニングへと大きな学びになっているようだ。具体的に行なっていることは年長さんに対しては、「アプローチカリキュラム」を、そして小学校1年生の最初の2ヶ月には集中的な「スタートカリキュラム」を提供している。それぞれ各園、各学校で考えている。

所感：「人」「組織」「教育」の3つをつなぐ、幼保小連携はとても素晴らしいものだった。特に2020年に迫る教育改革でも、主体性や創造性は求められてくるが、その基礎を形作るために就学前から行なっているということ、そして連携することでより大きく成長させていこうとしているのは大いに見習うべきことがあると感じた。

◎ 2月20日（水）

（ア）行程

リッチモンドホテル高知～南国市役所～高知龍馬空港～大阪伊丹空港～花巻空港～陸前高田市（解散）

（イ）視察

① 南国市役所 9:00～10:30

説明員：山田恭輔氏（南国市役所 危機管理課 課長）

防災対策の事例の紹介を受ける。

説明内容：南海トラフ地震に備え、沿岸部に14基の避難タワーを設置、約20億円の大掛かりな事業を手がけた経緯の説明を受けた。設置場所に関しても住民の協力を得ていた。また普段から住民に使っていただけるように蹴破り板などは設置しておらず、お祭りなどでも利用しているそう。また地元高専生徒が開発したアプリなどで避難者情報なども把握できるようになっているという。コミュニティーセンターも避難できるようにと改修し、複数箇所から電源が取れる設計にするなどして様々な対策を行っていた。

所感：住民を巻き込んで行っているところ、普段使いしてもらうことで愛着を持って地元の人に管理してもらうことなどが素晴らしいと感じた。具体的には貯蓄庫には地域の方々個々の物資も設置しているなど。また南海トラフ地震のシミュレーションの結果、2,800名が津波で亡くなると判断されたのをきっかけに、その人数をゼロにするために、大掛かりな津波タワー14基の建設へと踏み切ったのはとても素晴らしく、地域住民の防災意識を高めることに大きく貢献していると感じた。